

2025 年度第 5 回価格審査会の開催について

2025 年度 5 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2025 年 8 月 13 日(水) ～ 8 月 15 日 (金)
場 所	上記期間中のメール会議にて実施した
委 員	松田 寛志 日本工営株式会社 流域水管理事業本部 本部長 遠藤 和重 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 石井 修一 東日本建設業保証株式会社 経営企画部 副部長 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 星野 正 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：小林 法雅、次長：南 昌宏 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：大澤 勝、課長：本間 哲

☐2025 年度第 4 回価格審査会議事録(案) 確認

☐2025 年度第 5 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の入稿状況 ・ 価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 セメント（バラ）（広島市ほか5都市）、レディーミクストコンクリート（普通セメント使用）（伊達市ほか70都市）、道路用砕石類（秋田市ほか35都市）、再生砕石類（秋田市ほか14都市）、PHCパイプ（福井市）、アスファルト混合物（宇都宮市ほか25都市）、ストレートアスファルト（全国）、コンクリート積みブロック（滑面）（前橋市ほか6都市）、燃料油（全国）、鉄スクラップ（青森市ほか27都市）、非鉄スクラップ・アルミ（札幌市ほか8都市）ほか ・ 価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（青森市ほか45都市）、H形鋼（青森市ほか45都市）、等辺山形鋼（青森市ほか40都市）、鋼板（岐阜市ほか27都市）、コンクリート型枠用合板（水戸市ほか9都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか37都市）、非鉄スクラップ・銅（札幌市ほか8都市）ほか 2. 比較資料 ・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	アスファルト混合物の七尾市と輪島市の価格が県内の他エリアより大きく上昇しているのは、復旧工事での需要増加によるものと思われるが、能登半島の復旧工事による影響が、今後大きく出そうな資材はあるか。また県内の他エリアへの影響の有無はあるか。	七尾市と輪島市では震災復旧工事が本格化したことにより、アスファルト合材の価格が大きく上昇している。また、輪島市では、生コンクリートの価格が 2025 年 8 月号において、m3 当たり 3,000 円上昇している。復旧工事による影響が大きく出る可能性のある資材は、現時点では見当たらない。なお、アスファルト合材やレディーミクストコンクリートは地場産業資材であるため、他地区への影響は限定的とみている。
質問 2	異形棒鋼が札幌地区で価格が高止まりしている理由は何か。	札幌地区では、異形棒鋼の生産工場が限られているため、競争性が低いことから、他地区に比べ価格が維持されている。
質問 3	コンクリート用型枠合板の補足コメントに「現地価格が強基調」との記載があるが、その主要因は何か。また、日本の国内需要は低迷しているが、他国の需要や米国の関税の影響が日本の輸入価格に与える影響はあるのか。	コンクリート用型枠合板の「現地価格が強基調」となっている主な要因は、以下の 2 点となる。①現地の原木不足による原材料供給の制約、②賃金の上昇に伴う製造コストの増加である。一方、他国の需要については、日本向けの型枠合板と寸法や工場ラインが異なるため、直接的な影響は限定的である。ただし、他国の需要が旺盛になると、日本への入荷量が減少する可能性はある。他国の需要などを要因とした価格への影響は現時点ではない。また、米国の関税については、現時点で日本の輸入価格に対する影響は見られない。
質問 4	福島地区の主要資材価格の掲載にあたって、環境省福島地方環境事務所が公表している「資材等単価一覧」を参照しているか。	当会刊行物の価格決定にあたり、環境省福島地方環境事務所が公表している「資材等単価一覧」は参照していない。
質問 5	新聞報道によると、配水管などに使う塩化ビニル樹脂のアジア相場の価格水準は低迷しているとされている。一方、主要資材価格推移表の硬質ポリ塩化ビニル管の価格は令和 2 年より上昇している。国内とアジア相場の資材価格には何らかの相関はないのか。	塩化ビニル樹脂のアジア相場は、中国経済の減速などにより需要が低迷しており、価格水準も低調に推移している。一方、国内の硬質ポリ塩化ビニル管は、人件費や燃料費、輸送コストの上昇などを背景に、メーカーや流通業者による値上げや価格維持の動きが見られる。アジア相場と国内相場では、原材料を含めた製造コストの相関は見られるが、価格水準については、需給環境が異なるため差異が生じている。

質問 6	建設副産物処理・処分情報に、各自治体の処分場やクリーンセンターなどで扱う場合の処分や受け入れの費用が掲載されているが、これらは毎月変動するのか。また、このような処分場施設は「民間委託される」「施設が統合される」ケースが見られるが、関連情報の収集は行っているのか。	建設副産物処理・処分情報は、関東地域協議会の調査結果を転載しており、協議会のデータが更新されたタイミングで掲載内容を変更している。建設発生土や建設副産物受入については、当会調べによるもので、調査頻度は年 1 回とし、それ以外の月は変動があった場合に更新している。掲載対象は主に公共施設であるが、民間の処理施設等は、都道府県等が許可している産業廃棄物処分施設名簿等に基づき情報を収集している。
質問 7	ニッケル系ステンレススクラップやアルミスクラップは上伸、銅スクラップは下落しているが、国際相場との関係はどのようになっているのか。	ニッケル相場や製品としてのステンレス鋼板の値動きとは異なり、ニッケル系ステンレススクラップは上伸している。これは、猛暑の影響により市中でのスクラップ発生量が減少していることが理由で、国内におけるニッケル系ステンレススクラップ相場は上昇傾向にある。一方、アルミスクラップの上伸や銅スクラップの下落は、国際相場の動きと連動した価格変動となっている。
質問 8	レディーミクストコンクリートの出荷量が減少傾向にある青森地区や三次地区で、現状では、輸送費・材料費等の固定費上昇で値上げが受け入れられているとあるが、需要減少の実態が、今後の需給バランスや価格に影響する可能性はあるか。	青森地区や三次地区では、需要低迷に危機感を抱いた協同組合が強気の交渉を続け、需要家側も安定供給を優先して値上げを受け入れている。今後、需要低迷が続くなかで、協同組合の組織率低下や員外社による安値販売に追随するような動きがあれば、市況が下落する可能性はある。
質問 9	輪島地区での再生アスファルト混合物の価格上昇は震災復旧需要によるものであるが、今後の価格安定化の見通しについてはどうか。その他、震災復旧需要が強い地域での再生アスファルト混合物の価格上昇の見通しについてはどうか。	輪島地区のほか、七尾地区においても震災復旧工事の本格化により、アスファルト合材の価格が大きく上昇している。アスファルト合材メーカー各社は、骨材などの原材料費に加え、電力・ガス料金や設備老朽化対策費などの製造コストが増加していることから、震災復旧需要がひと段落した後も価格を維持したい考えを持っている。

質問 10	「ガードレール関連製品ーブランド品ー」と「道路用コンクリート製品」の二つの補足コメントを比較すると、値上げ理由で「製造コスト」と「原料高」と理由が違うが、明確に理由が違うのか確認したい。	入稿情報表の補足コメント欄には、主な価格変動理由を記載している。「製造コスト」と記載した場合は、原材料価格に加え、人件費や設備の維持管理費などのコスト増の影響も大きいことを示している。一方、「原料高」と記載した場合は、原材料価格の上昇による影響が大きいことを示している。
質問 11	「橋梁用床版ーブランド品ー」の最大変動率 353.8%の要因を確認したい。	縦断勾配加算額が 13,000 円から 59,000 円へ上昇したことによるものである。ブランド品のエキストラ価格であるため特殊性があり、大幅な値上げが浸透した。
質問 12	「オイルフェンス」最大変動率 2900%の要因を確認したい。	最大変動率 2900%は、メーカーによる価格改定に加え、製品の単位をmからスパン（20m/スパン）に変更したことに伴う価格の変動である。
質問 13	「ガス」の補足コメントに「需給ひっ迫を背景に上伸。」とあるが、需給ひっ迫の理由を確認したい。	ヘリウムガスについては、半導体製造や医療用途での需要が拡大する一方、ヘリウムガスの産出は天然ガスに依存し、供給国も限定されていることから、世界的に需給がひっ迫している。日本は 100%輸入依存のため、世界的な需給ひっ迫および価格高騰の影響を受け、価格が上昇している。炭酸ガスについては、既存工場の閉鎖や減産、メーカーの工場定期修理などが重なり、国内需給がひっ迫。また、メーカーが工場修繕費用などのコストを製品価格に転嫁していることから、価格が上昇している。
質問 14	自由勾配側溝の「静岡市」および「浜松市」は上伸と下落の双方に記載があるが、その理由は何か。	「静岡市」「浜松市」地区の自由勾配側溝は、一部製品を除き、製造および運送コストの高騰により一律で 10～20%程度上昇している。一方、「蓋」のみは、メーカーのコスト構造見直しに伴う価格改定により下落となっている。
質問 15	鋼管テーパールポールの最大変動率が 30.0%となっており、補足コメント欄では「原料高」とあるが、その内容（背景）は何か。	メーカーは、2025 年 4 月に価格改定を実施。値上げ浸透により価格上伸（9%程度）している。「最大変動率 30.0%」の内容は、小口の場合の「運賃加算額」であり、数量的な要因を反映した輸送コストの上昇が背景となっている。

質問 16	ステンレス鋼板が約 3 年ぶりの安値水準との報道があり、背景には中国製を中心に安価な輸入材の増加、ニッケルの国際相場下落、円高・ドル安の進行などが理由に挙げられている。ニッケル系ステンレススクラップは、直近で相場等が大きく変わったという理解でよろしいか。	ニッケル相場や製品としてのステンレス鋼板の値動きとは異なり、ニッケル系ステンレススクラップは「夏枯れ」と呼ばれる状況となっている。これは、猛暑の影響による解体工事の進捗遅れなどにより、市中でのスクラップ発生量が減少していることが理由で、国内におけるニッケル系ステンレススクラップ相場は上昇傾向にある。
質問 17	アスファルト混合物が、栃木県内および長野県内の多くで一斉に値上げが受け入れられた背景は何か。	両県とも、原材料である骨材価格の上昇やドライバー不足による輸送費の増加、出荷量減少に伴うプラント維持固定費の上昇分などを製品価格に転嫁するため、4 月から値上げを実施している。他県でも同様の動きはあるが、両県では物件の進捗に合わせて値上げ交渉が進展し、価格が上昇した。
審議結果	「建設物価」9 月号、「Web 建設物価」9 月号の価格動向に問題はなかった。	

以 上